

入選

## 小さな親切大きな勇気

香川県 西中学校 一年  
中山 友成

これは、僕が小学校4年生のときの体験です。ある日の登校中のことでした。いつも通う道のマンションの下で、ごみ捨て場に分別されたはずのスチール缶がひどく散乱していました。そのとき、ちょうど近くを通りがかったおばあさんが、散乱していたスチール缶に気づいて、元に戻そうとすぐに片づけを始めました。

でも、散乱している缶は、マンションの住人が出したものなので、そのおばあさん一人で片づけをするのはとても難しい量のように僕には見えました。朝の早い時間だったので、周りには僕と同じように登校途中の人たちがいっぱいいました。しかし、みんなはおばあさんにまったく気がつかないようにそっぽを向いて、おばあさんの横を通り過ぎていくばかりです。

僕は、おばあさんを手伝おうと思ったと同時に、一瞬こう思いました。

「周りと違う行動をして、変な目で見られないだろうか。」

「集団登校だから、僕が足を止めておばあさんを手伝うと、班員や班長に迷惑になるのではないだろうか。」と。

でも、そんな考えが浮かぶのと同じくらいの速さで、自然に僕の体は動いていました。僕は、勇気を出して、おばあさんの手伝いをしました。二人で片づけると、思っていたよりすぐにきれいになり、元のように片づけられました。そして、片づけが終わると、おばあさんは「ありがとうね。」とにっこり笑顔で言ってくれました。

「ありがとうね」と言ってくれたとき、勇気を出して手伝ってよかった、と心から思いました。その後、登校班から遅れていた僕は急いで班に追いつこうと、全力で走りましたが、なんだかとてもすがすがしい、良い気持ちで走ったのを覚えています。

あのときもしも、ほかの人たちと同じようにおばあさんに気がつかないふりをして、登校していたら、僕はすがすがしい気持ちどころか、一日中学校でもやもやした気持ちのままおばあさんのことを思い出して、後悔していたに違いありません。自分の気持ちに正直に、一人だけで行動できたおばあさんはすごい、と思いました。

僕も周りに流されずに、おばあさんのことを思って行動できたことで、自分に自信が持てたし、その日一日、とても気持ちよく過ごすことができました。

小さな親切は、当たり前のようにとても難しく、勇気があることなのだとわかりました。当たり前のようで難しい、このことの大切さと気持ちの良さを体験し、人に親切にすることは勇気が必要で、思ってもなかなかできないことがあるかもしれませんが、周りの人に対して少し勇気を出し、思っただけで、周りの人も自分も心が温かくなり、すがすがしく気持ちの良い毎日を過ごせるのではないかと、思いました。